

## とろんのPAI通信 2010年秋号

## イノチの法則「一瞬先は、ひ、か、り」

2007年7月7日七夕から7週間(49日!!)、タイ北部の桃源郷PAIで展開された祭り「たましいのかくじっけん」が終了し、初日の七夕にまかれたお米も育ち実り、稲刈り直後、ボクらはPAIから岡山県総社市にベースを移し、ボクの両親の介護生活が始まった。2007年の暮れのことだ。祭りの49日間、毎日誰かが強烈な渦を巻き起こし人々を巻き込み、巻き込まれた人たちが巻き返してゆくイノチの連鎖反応が絶え間なく起きていた。ボクも全てを

出しつくし、燃え尽きた挙句の果ての突如の介護生活の始まりだったし、いつまで続くのか全くわからぬ岡山での介護生活だったから、PAIでのSPACE「ムーンビレッジ」も閉村し、総社の町で「太一や」という新たなるSPACEを始めたのだ。

恋でも結婚でも仕事でも住む場所でも夢でも何だって「もうこれが最後の究極だろう」という「限界意識」のようなものを感じてきたものだけど、「うちゅう力」だか「未来力」だか「痴呆力」だかの引力によって、とき熟し、あ!!とその「限界意識」がうち破られ、どんどんとイノチの渦に巻き込まれ展開していってしまう。命、運ばれる、運命ってやつだ。「もうこれが最後の究極の祭りだ」と、ホッとして岡山の田舎での生活を始めたのに、いつの間にか「2012年12月から108日間の祭り」という強い「想い」が念仏のように湧き起き始め、6年間続いたムーンビレッジが何者かに売却されて「これでもう村づくりや田植えから解放される」と喜んでたのに、突如と、3倍も広がって小川も流れる山奥の新天地を提供してくれる人が現れ「NEW MOON VILLAGE」を始めるハメになり、またもや村づくりが再開され、あれよあれよと、2012年の祭りに向かって火が付いてしまった。

この文章が人々に発信される頃、ボくらムーンビレッジファミリーは滋賀県山奥の「山水人」の祭りにキャンピングして森の中に「ムーンビレッジ」SPACEを造り、「太一や」「あさひや」「夢蝶(ゆめむし)」などのバザールも開いて静かに渦を巻き起こしていると想う。そして、2年半続いた岡山での介護生活も終わり、両親の49日も済ませたので、「太一や」はしばらくお休みして、この8月



6日で4歳に成った「太一」の産まれ故郷PAIに戻ろうと想っている。そして2012年12月に向かって、刻々と湧き起きてくるボクの「想い」を「形」にしてゆく日々を過ごしたいな。ボクにとって『祭り』は純白のキャンパスみたいなもので、全くの「白紙」から全てが始まり、桃源郷PAI,新天地NEW MOON VILLAGEの「場」の引力に惹かれ巻き込まれた人々が、やむにやまれず内奥から湧き起る人それぞれのイノチの展開力と感染力でキャンパスに渦を巻き返してゆく。祭りにまつわる準備や進行や役割や運営やメッセージなどは、そういう湧き起るイノチの展開力と感染力から「ひとりで」産まれ出てくるもので、2012年、どんな祭り風景や展開シーンやメッセージなどが産まれ出てくるのか、ボクも誰もわからないまま、祭りが始まってゆく。

純白のキャンパスのように全くの「白紙」から全てが始まってゆく。というより、「いだしっぺ」のボクにとってはすでに祭りは始まっていて、ボくらムーンビレッジファミリーは2012年はずっとPAIに生活していて、祭りに向けて湧き起きてくるボクらの「想い」を生活の中に「形」にしてゆくけど、「誰か」が「何か」を祭りのためにあらかじめ用意はしてないから、「誰か」が「何か」を巻き起こさない限りなにも始まらないSPACE&TIME 108DAY. 108日間もあれば、種をまいても花咲き実もみのり、竹や葉っぱや土でマイホームも造れるし、糸を紡ぎ染め機織り着ることもでき(NEW MOON VILLAGEには綿の木もあるし)、恋芽生えれば結婚式だって挙げられるだろう。現在、NEW MOON VILLAGEには全く性格やセンスの違う五組の家族がそ

れぞれユニークな家を建てていて、運動会もできる広さの草原、釣りや水泳もできる池、こどもが遊べる小川、洗濯が楽しめる水路、畑や果樹園の森たちが在って、そんな中に自分のSPACEを見つけ、テントやティピや自分流の「何か」が花のように立ち伸びてゆく。いまのところ電気も水道もないけど、ソーラーパネルのゲストハウスが三軒在り、井戸は二つ。「誰か」がどこかに井戸を掘れば三つ目の井戸が産まれる。「誰か」が水路で水力発電

を起こせば、マイクも使えるようになる。

純白のキャンパスのように全く「白紙」から全てが始まってゆくSPACE&TIME. 絵のように文章のように音楽のように人生そのものように、内奥から湧き起る強い「想い」が「形」となり、その産まれたての「形」が光放ち、人々に「想い」を湧き起こさせてゆく。なにしろ、『人生は想うようにしかならない』(岡山県山間部在住の「あ〜ち」の言葉キーホルダーの句)のだからなあ。2007年の祭りは49日間だったけど、ボクはその熟成させゆく長さに物足りなさをずっと感じていた。やはりイノチあるもの、ゆっくりしていねいにかくじつに熟成させゆく「ゆったりとしたながさ」が必要なだろう。この108日間という「意味ありげ」な数字の間で、『善悪の彼岸』(ニーチェ)の世界で、人間の様々なドラマが発酵熟成してゆき、「ひとそれぞれ」「みんなちがってみんないい」「どのみてもキレイだな、そして「このよはすべてこともなし♪」と「うちゅう」の中心から観じられるようになり、善悪美醜上下左右男女を超えた源色の七色の虹の華咲く「万華鏡的世界」がこの世に今、蔵存展開していることへの『うちゅうのだいじょ〜ぶ』(モナケバのもんちゃん(の歌)観が起きてくると、この世がもっともっともっと「おもしろくっておかしくって、HAPPYになれる♪」こと必至。

岡山県笠岡市の沖合に浮かぶ「白石島」の浜辺で、「山本シン」さんにブルースを歌ってもらいながらの執筆でした。(『一瞬先は、ひ、か、り♪』を、いつか、シンさん、歌ってくれるかも。オタノシミ)

人間たらしの、とろんより。